NPO 尾瀬自然保護ネットワーク 2023-11 月（第 3 号）

尾瀬ネットワーク通信

Vol.26. No.3　2023 年 11 月（第 97 号）

ーーーーーーーー目　次ーーーーーーーー

新インタープリター5 名誕生・・　・・1
歩行ルート・スナップ・・・・・・・・・・・・・2
新インタープリターご紹介・・・・・・・・・・3-5
群馬側/活動報告・・・・・　・・・・・・・・・6-11
特別研修那須岳「下見」実施報告・・・・・・・・12
「賛助会員の日」活動報告・　・・・13
不法投棄物除去活動・・・・・　・・　・14
大江湿原における防鹿柵の撤去活動・・・・・・・15
事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・16

新インタープリター5 名誕生　2023 尾瀬 academy

秋の研修初日＜9 月 30 日（土）＞の尾瀬は、山岳地域独特の変りやすい天候でしたが、尾瀬沼畔にて 2023 年秋期尾瀬アカデミーを開催。合流地点の三平下を目指して研修を開始しました。

＜撮影：2023/10/1　尾瀬沼ヒュッテにて＞

2023 尾瀬アカデミー第 1 回（夏期）は、6 月に開講。尾瀬の成り立ち、生きもののこと、気象のことなど主に自然科学系の研修会でした。秋期の合同研修は、尾瀬沼南岸を起点とした湖畔での研修です。湖沼の水質維持に不可欠な浄化槽、また取水口、不法投棄（負の遺産）現場など、観光ハイクとは異なる側面、つまり人と尾瀬の関わる面からも新会員と見聞しながら考えていただきました。

2023 年はコロナ禍も終わり多くの入山者で賑わった尾瀬ですが、環境保全面から見ると新たな段階に入っています。鳩待峠では 4 台もの大型重機を使った山小屋建設（新鳩待山荘）工事に拍車がかかっています。既に東京電力は、外国人誘致のための新築であることを公式に表明しています。

新会員が訪れた沼尻の「ササやぶのカーテン」を進むと「昭和の負の遺産」の空間が広がっていました。全員が一言「ひどい😠」。　その後押し黙り、茫然とした時間が流れました。

＜歩行ルート＞

群馬側（6/3～4）	福島側（6/3～4）
6/4 開講（自己紹介/準備運動） 鳩待峠発→アヤメ平方面（入山届 7：50 分） →アヤメ平 12：30→富士見峠→鳩待峠 →16：30/マルイ旅館泊⇒風呂/夕食 →座学（学術調査ビデオ視聴/懇親会）→就寝 **6/5 戸倉発尾瀬ヶ原方面** 鳩待峠発→山の鼻→上田代 10：00 →研究見本園 →鳩待峠⇒マルイ旅館着（解散 15：00）	**6/4 御池発（福島側）開講** 御池田代～燧裏林道～（上田代往復）～御池古道→モウカケの滝展望台/休憩～七入→桧枝岐民宿吉田屋→夕食/ミニ懇親会→就寝（約 11 ㎞歩行） **6/5 桧枝岐民宿発** →御池（シャトルバス）～沼山峠～大江湿原～小淵沢分岐　～小淵沢田代～尾瀬沼ビジターセンター（昼食）～沼山峠→御池→桧枝岐道の駅（解散 17：00）（約 12Km 歩行）
群馬側（9/30～10/1）	**福島側（9/30～10/1）**
大清水→（排水トンネル）→三平峠→三平下（休憩/昼食）	御池→大江湿原→（尾瀬沼ヒュッテ）→三平下（休憩/昼食）
（合流後） 9/30（自己紹介）→三平下発→（尾瀬沼南岸）→浄化槽→取水口→沼尻（負の遺産）→沼尻平湿原→尾瀬沼ヒュッテ着（16：00）→（風呂/夕食）→ミニミニ懇親会→就寝（21：00） 10/1 朝食→修了式→尾瀬沼周辺散策→尾瀬沼ビジターセンター→長蔵氏お墓→（群馬/福島側散会）	

※尾瀬の光と影

〇新インタープリターご紹介　　どうぞよろしくお願いいたします。　　（敬称略）

今川孝博 **（岐阜県）**		◎感想文 今回、尾瀬の自然や景色にとても興味があり一度訪れたいと思っていたところ養成講座があることを知り参加しました。一回目の 6 月は尾瀬ヶ原周辺でミズバショウの群落を見て「これがテレビやハイキング雑誌でとりあげられている場所なんだな」と感動しました。また樹木の説明では世代交代の形として倒木更新というものが行われていることを学びました。そして二回目の講座では、生憎の雨の中でしたが尾瀬沼を周回しました。また今回は、福島側からのメンバーと合流し長蔵小屋の話や不法投棄現場の視察では、実際に未だに沢山のごみが残っている現状に驚愕しました。また尾瀬沼からの取水量の膨大なことにも驚愕しました。この素晴らしい尾瀬の景観を守っていきたいと思います。この尾瀬の木道に続く先の未来が明るい未来になるように、微力ながらも活動していきたいと思います。
緑川弥寿彦 **（福島県）**		◎尾瀬インタープリター養成講座に参加して 6 月と 10 月の 2 回、インタープリター養成講座を受講しました。講師の皆様には大変お世話になりました。南会津町に単身赴任しており、この機会に尾瀬をもっと知りたいと思い、受講を申し込みました。福島県内に住んでいますが、尾瀬に足を踏み入れるのは 20 数年ぶりで、登山靴を履いたのも 10 数年ぶりでした。 春の講座で一番印象に残ったのは裏燧林道で案内いただいた「高層湿原」、尾瀬の核心なんだということでした。推定樹齢 100 年の小さな「ヒメシャクナゲ」の花が可憐でした。それから、眼下に見下ろす「ブナ平のブナ原生林」にも感動しました。 秋の講座では雨の中の行程もありましたが、分水やゴミ問題、汚水処理など尾瀬の負の部分についてよく知ることができました。今後、自分が楽しまないと続かない、との磯部会長のお話を胸にできるところから参加したいと思います。当面の目標は、尾瀬ヶ原に足を踏み入れることです。
梅久保千里 **（埼玉県）**		◎尾瀬アカデミーに参加して 今回の研修参加は知人からの紹介がきっかけでした。何十年も前に一度だけ行った事のある尾瀬沼。当時はこんな大自然で素敵な場所があったのかと感動を覚えました。その尾瀬沼の自然が、今では失われつつある事を知り、自分にも何か出来ればと思い参加を決めました。 研修では地域との関わりの中で尾瀬沼の自然がどのような歴史を辿ったのかなど、観光で訪れるだけでは知る事がなかったであろう様々な事実を知り、衝撃と共に焦りを感じました。誰かが守らなければ、大きな力によって確実に尾瀬沼は無くなってしまうかも知れない。もう知ってしまった以上は、見て見ないフリは出来ないと感じています。今後は少しでも皆さんの活動に協力させていただきたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。ありがとうございました。

佐久間梨沙 **（福島県）**		◎尾瀬アカデミーに参加して 尾瀬アカデミーを知ったのが、新聞広告でした。尾瀬には、何度も訪れていましたが、詳しい歴史はあまり知りませんでした。ゴミの持ち帰り運動を始めたのが尾瀬ということも知らなかったのです。一番研修で驚いたことは、昔捨てられていた、ゴミが今も尾瀬に残っていたことです。何度も訪れていたのに、何も気づいていなくて、景色綺麗だな～なんて思っていたら、昔捨てられていたゴミが今もあると聞いて、信じられませんでした。実際、ゴミ捨場に行くと、その光景は衝撃的で何も言葉が出ませんでした。まだまだゴミが埋まっていました。ゴミを片付けるにも、いろいろ許可が必要で、ゴミ以外にもたくさんの課題か尾瀬にはあるのだと思いました。 今ある尾瀬の環境を守りたいなぁと思っていましたが、いろいろな課題があり、すぐには解決ができないものもたくさんあるのだと気付かされました。それでも、尾瀬の景色はたくさんの人にきてほしい場所でもあります。尾瀬の景色を守ること、環境問題や野生動物問題など、たくさんの課題がありますが、少しでも貢献できるよう、活動できればと思います。
佐藤弥生 **（福島県）**		◎尾瀬アカデミー　感想 新聞で尾瀬アカデミーの記事を読んで軽い気持ちで参加申し込みをした。春の尾瀬アカデミーの前に道を知るため、車のナビで福島市から檜枝岐の道の駅まで行ってみた。遠い‥ 御池駐車場は、もっとハードルが高い。頭を抱えた。これで尾瀬を歩けるのだろうか。不安。それしかなかった。 やるしかないな。春の尾瀬アカデミーに参加した。歩くのにせいいっぱいで、存在が迷惑だと感じた。尾瀬は美しい。民宿のご馳走も美味しかった。 秋の尾瀬アカデミーは尾瀬沼の他に、ゴミ捨て場も見ることができた。なかなか見れない部位だ。 尾瀬アカデミーに参加し、視野が拡大した。ただ美しいだけでない。後世に尾瀬を継続していくため大事な事を学習できた。このような機会を与えてくださり尾瀬アカデミーの皆様に感謝したい。

○2023 尾瀬アカデミーのひとコマ

夏期アカデミー

夏期アカデミー

沼尻平の地塘

◎群馬側活動

尾瀬の環境チェック　7/29＜晴＞

群馬側担当理事　小鮒　守

群馬側担当理事　須賀邦雄

最高 31.9°C、最低 14.6（山の鼻）

【動きだした外国人誘致の補助金事業】

鳩待山荘建替えに伴う解体は 7/3 より開始され、基盤整備の鉄骨設置やコンクリートを流し込んでいる最中でした。「国立公園満喫プロジェクト」の中核をなす、「国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業」（環境省）の一環であり、いよいよ尾瀬でも槌音とともにスタートしました。このプロジェクト事業の数値目標は、国立公園に外国人観光客 1000 万人誘致です。大型ショベルカーやミキサー車など 5 台が鳩待峠を占拠、けたたましく発生するエンジン騒音は、人も鳥たちも逃げ出します。鳩待峠は、都市部で良く見る工事現場と化しています。2024 年度内の完成を目指し施設整備をすると報道されています。

【鳩待峠の外来植物相】

群馬側では活動を行うごとに、外来植物や移入種の侵入動向を写真記録として残しています。第 4 次尾瀬学術調査は外来種侵入に対し強い警告がされています。鳩待峠では「オオバコ」と「ドクダミ」（ともに国内移入種）が、茎も太くすこぶる元気で繁殖しています。またアカツメクサ、シロツメクサ、ヒメジョンはすくすくと成長しています。（山の鼻ではオランダガラシを再確認）

尾瀬国立公園管理運営計画書（令和 4 年 4 月）に記載されている外来植物対策には、『「防除すべき外来植物一覧表」を作成し、（中略）特にオオバコやシロツメクサ、ハルジオン等が多く生育している各集団施設地区や山小屋周辺の除去作業は関係者の協力のもと、優先的に行います。』と記されるものの、「防除すべき外来植物一覧表」は未だ公表されず、また山小屋周辺の除去作業は、少なくとも私たちは見たことがありません。口先だけの政策は今までと同じです。

【携帯トイレアンケート実施】

至仏山、燧ケ岳はともども名峰と称され、尾瀬の地形や生態系を作り上げたシンボル的な存在です。

至仏山登山口は 2 つ＜①東面登山道（山の鼻側）と②南面登山道（鳩待峠側）＞があります。2022 年鳩待峠側からの至仏山登山者は、約 14000 人台でしたが、東面道側は未公表ではありますが、鳩待側と同等以上の登山者数と推定されます。（トータル年間約 30000 人近くは至仏登山）

二つの名峰とも登山道には、トイレがありません。6～7 時間の登山を行う場合、人の生理現象として、どうしてもトイレは必要と考えます。国立公園の登山道で垂れ流しが許される時代でもなく、ましてや

人的影響の最少化を求められる特別保護地区では、トイレブース設置は「おもてなし」として当然のことと考えています。

この携帯トイレ案件について、当会ではかつて環境省片品自然保護官事務所や片品村役場に『登山コースの適切な場所にトイレブースを設置し、下山口に「携帯トイレの回収ボックス」を用意する。』などとした提言書を提出しましたが、未だ実施には至っていません。

【アンケートの結果】

本年の「携帯トイレに係るアンケート」の一部をご紹介します。アンケートで明らかになったことは、

a)　至仏山にはトイレがないことを、多くの至仏山ハイカーは認識している。

b)　（トイレがないことを）知ってはいるものの、携帯トイレを用意することなく、尾瀬に来ている。

c)　トイレブースがあれば、ほぼ全員が「利用したい」と、回答。

過去のアンケート結果と大きな相違はありませんが、ハイカー自身の入山マナーも全く向上していませんでした。鳩待峠の休憩所には、新たに自動販売機が設置されました。日焼け止め（1300 円）、クマ鈴（1430 円＆770 円）、アーモンドチョコ（330 円）、あんパン（200 円）はありましたが、携帯トイレは用意されていませんでした。

主なアンケートヒアリング項目		2015年	2022年	**2023年**
【経験】至仏山への登山は、今回で何回目でしょうか。	初回	66%	73%	62%
	2回	17%	10%	38%
【訪問先】今回の登山コースはどこですか。	山ノ鼻経由至仏山（東面）	75%	38%	54%
	鳩待峠～至仏山往復（南面）	15%	29%	46%
【トイレの存在】至仏山にトイレがないことは、ご存知ですか？	「トイレ」無しの周知度合い	トイレが無いことを知っている		
		83%	95%	92%
【必要性】至仏山登山で「携帯トイレ」は、必要だと思いますか？	トイレの必要性の認識	トイレは必要ですか？		
		72%	95%	92%
【持参】「携帯トイレ」を至仏山登山に持参していますか	携帯トイレの持参	持参せず		
		76%	86%	85%
【トイレブースが設置されれば】携帯トイレブースが設置されれば、携帯トイレを使用しますか？	トイレブースを利用する	利用する		
		86%	95%	85%

（※有効回答者数/2015 年 144 名、2022 年 21 名、2023 年 13 名）

シカの忌避植物　マルバダケフキ

ホロムイソウの果実

＜参加者（4 名）＞大山昌克、小鮒　守、須賀邦雄、結城宏明

群馬側活動

2023 笠ヶ岳高山植物相調査

群馬側担当理事　小鮒　守

群馬側担当理事　須賀邦雄

2023/0811（金）　快晴

気温/最高 27.7℃―最低 13.1℃（山の鼻計測）

＜5：40 分　至仏山入山口出発/14：50 分　鳩待峠戻り＞

【調査地点　笠ヶ岳】

当会の笠ヶ岳高山植物調査は 2010 年より開始され、本年含め 8 回目となります。延べ 47 名の会員参加による高山植物相の定点調査です。調査方法は、1m×1m＝1m² のコドラート法で行います。

笠ヶ岳（2057m）は至仏山塊の南端に位置し、一帯は自然公園法第一種特別地域に指定された自然度の高い地域です。小至仏山、悪沢岳（2043m）、小笠、笠ヶ岳は尾根で連なり、笠ヶ岳の東南面までが尾瀬国立公園域内です。なお西面は群馬県の「至仏山・笠ヶ岳西面環境保全地域」に指定されています。

至仏山塊は蛇紋岩であるため、特異な植物が分布し森林限界は 1600m 付近と低いです。気候的には日本海側気候域であり、冬期には 5～7mの積雪に見舞われる国内屈指の多雪地帯です。遅い雪解けの影響を受け、登山道は泥濘状態であり、その山道を調査スポットまで歩くことになります。（往復約 13Km の山歩き）

調査ポイントの笠ヶ岳東肩（標高 2000m）は山頂直下となります。見上げれば山頂および周辺には蛇紋岩の大岩が無造作にへばり付いて露頭しています。標高 2000mでは高木層・亜高木層の樹木は全くなく、低木層もチングルマを除けば、ほぼゼロであり、草本層中心の雪田植生です。

【2023 年の成果】

調査された植分は、高さ 30～60cm ほどで植被率 80～100％。草本層にはヒメノガリヤス（イネ科）、イワイチョウが優占する亜高山帯の雪田植生です。

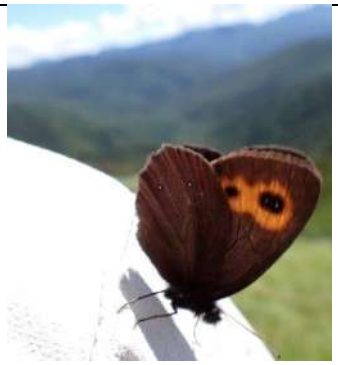
No.2笠ヶ岳南面（小笠側）（標高1950m）　2023/0811調査

No	種名	数量
1	モウセンゴケ	68
2	ヒメノガリヤス	400
3	イワイチョウ	164
4	コイワカガミ	60
5	チシマザサ	84
6	ウラジロヨウラク	10
7	ネバリノギラン	3
8	チングルマ	84
	計	873

No.1笠ヶ岳（標高2000m）　2023/0811調査

No	種名	数量
1	キンコウカ	12
2	イワイチョウ	72
3	コイワカガミ	24
4	ヒメノガリヤス	1200
5	チングルマ	44
6	モウセンゴケ	24
7	チシマザサ	12
8	ジョウシュウオニアザミ	8
9	ウスユキソウ	20
10	ネバリノギラン	12
11	コバイケイソウ	1
12	ウラジロヨウラク	1
13	ニガナ	1
	計	1431

ベニヒカゲ（準絶滅危惧種）　撮影/高谷秀史氏



笠ヶ岳山頂より、至仏、燧を望む　撮影/結城宏明氏

＜参加者 5 名＞大山昌克、小鮒　守、須賀邦雄、高谷秀史、結城宏明

尾瀬の環境チェックと野鳥観察

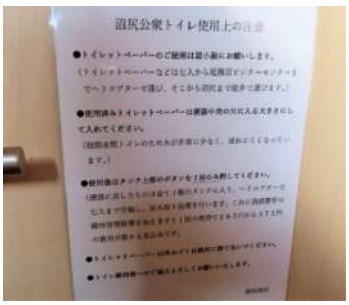
指導員　高谷　秀史

8 月 12 日（土）笠ヶ岳高山植物調査の翌日、尾瀬沼の環境チェックを行いました。尾瀬沼を一周し、野鳥や沼尻のトイレ、いろいろな落とし物も確認しましたので、写真中心にご報告します。

市販価格より 4 割増しの、パンや飲料類の自動販売機。至仏山、燧ケ岳の山にはトイレの設置が無いにもかかわらず、「携帯トイレ」は自販機内にはありませんでした。

内部が新調された沼尻のトイレ
桧枝岐村が管理するようです。

多くの注意点が記されています



尾瀬沼の景色①　ビンの破片は無尽蔵にある

尾瀬沼の景色②　割れた小どんぶりかな

尾瀬沼の景色③　このビンは割れていない

カワウは 1 日あたり 500ｇの魚を食べるらしい。

ルリビタキ（至仏山/原見岩）

アオサギ（尾瀬沼）

クマの食事あと（ミズバショウの肉穂部分）

クマの落とし物 1.

クマの落とし物 2.

◎ヒトの落とし物

マスクはゼロになったものの、タオルやフェイスシートが木道脇に多い。マナー欠如もはなはだしい。意図的に捨てていると感じる。

割れたビンや缶は、水質調査（長蔵小屋桟橋）の際に、1 分ほどで回収されたもの。

尾瀬沼（8/12）晴/最高 29.5°C　最低 15.6°C

尾瀬はゴミの保護地区ではありませんが、昔からのゴミもありました。

マミジロ（ツグミ科）も確認でき、尾瀬沼周囲で鳴いていたのは、センダイムシクイ、ウグイス、コマドリ、そしてカラ類の混群多数。

大江湿原にはホオアカ。尾瀬沼ではカモ類、アオサギ、カワウといつもの鳥たち。

尾瀬沼の水質調査は次回以降ご報告いたします。

群馬側（2023 最終）活動

外来植物相とチョウの調査

群馬側担当理事　小鮒　守
群馬側担当理事　須賀邦雄

2023/0916（土）晴れ

最高気温 29.3°C　最低 15.4°C（山の鼻計測）

群馬側の最終活動の日です。例年の最終日は秋風が伴っていましたが、今年は早朝より暑く、入山者サポート活動も汗だく状態でした。

【国立公園満喫プロジェクト開始】

多くの入山者は尾瀬ハイクの記念に「尾瀬」標識の前で写真を撮りますが、今年は重機エンジンの騒音と背景のショベルカーまで写り込みとなります。ハイカーたちは怪訝そうな顔をしながら、尾瀬ヶ原に向かう姿が散見されました。静かな尾瀬、そして生物多様性の尾瀬とは、真逆の光景です。

【外来植物調査】

尾瀬に元々生息していなかったと考えられる数十種の外来植物相が、第 4 次尾瀬学術調査報告書に記載されています。外来種は一度侵入を許すと瞬く間に生息範囲をひろげ、在来の尾瀬の植物を駆逐するなど多大な影響を与えてしまうことは周知の事実です。鳩待峠では尾瀬の標識や標高を示す案内柱の足元は、すべてが外来種で埋まっています。国内移入種であるドクダミ、オオバコ、海外産のアカツメクサ、シロツメクサ、盛りを過ぎたヒメジョオンを確認しました。またビジターセンターの階段状の入り口には、エゾノギシギシが大きな株で元気よく育っていました。環境省の職員は外来植物侵入には余り関心が無いようです。

環境省設置の標識の足元は外来種の花園

【チョウの調査】

研究見本へ向かいます。すれ違う人もなく、トリカブト、ミヤマワレモコウ、アケボノソウ、リンドウなど初秋の尾瀬の景色を味わいつつチョウ探しを行いました。キベリタテハ、キアゲハ、ウラナミシジミの出迎えを受けるも、本日お目当てのコムラサキは、腰を据えて待ちましたが一向に現れませんでした。

キベリタテハ（成虫で越冬）

＜参加者 7 名＞

伊藤（ア）、大山、小鮒、須賀、高橋（友）、福島、結城

今年もお世話になりました！

特別研修　那須「下見」の実施報告

福島側担当理事　鍋山　智之

9 月期に予定されていた「特別研修」が、安全かつ充実した研修となるよう事前にコースの確認を含めスタッフ役全員による「下見」を行いました。
「特別研修」は台風の余波が残り、残念ながら中止となりましたが、いつかはご一緒に、那須岳に行きたいと思っています。

【特別研修の「下見」実施】

７月３０日（日）9 時活動開始、天気は晴れ、気温 28°C（10 時）です。
活動場所　那須峰の茶屋跡避難小屋付近

磯部さんの車に同乗して、新白河経由那須県営駐車場へ向かい、本番予定通り 10 時到着で移動を開始しました。10 時の段階で駐車場は既にほぼ満杯。ロープウエイ山麓駅駐車場で上がるのを止められるものの、「仲間がいる」と伝え了解の上で進みました。（刀さんと高槻さんが事前に確保してくれた場所に、なんとか駐車が可能に）
この時間になると、早朝からの登山者や前日からの宿泊者などの車が移動しはじめ、駐車は可能となりそうである。

有難いことに刀さんは朝 6 時頃から、高槻さんは前日から駐車し状況を見聞してくれていました。
快晴無風の中で登山開始、多くの登山者が行きかう状況です。アサギマダラを見ながら歩けば、やがて峰の茶屋跡の避難小屋へ着。稜線上の重要な場所であるため、多くの登山者が行きかっていました。休憩の後には、無間地獄まで足を延ばしました。（高槻さんは三斗小屋まで往復を試みていました）
１１時５０分には、峰の茶屋跡の避難小屋着となる駐車場に向かいます。駐車場着（1 時 50 分）健脚の高槻さんも同じころ帰着しました。

【課題】

下見をしたことでいくつか課題も浮かびました。

① 峠の茶屋駐車場混雑状況・・・
　１０時頃は下へ移動する車が出てくるので何とか、駐車できるか・・？という状況。
② 二日目の行動は、天候や体力に問題がなければ計画通りに隠居倉経由で稜線へ。
　多少無理であれば、姥ケ平～牛ヶ首～無間地獄～峰の茶屋跡避難小屋から下山。又は峰の茶屋跡避難小屋経由の最短ルートで下山と多彩なルートがある。
③ 新幹線利用の有無により、駐車場への到着時間が変わってしまう。

＜下見の活動メンバー5 名＞（順不同）
磯部義孝、佐久間 治光、刀　光夫、鍋山智之
高槻弘美

「賛助会員の日」活動報告

福島側担当理事　刀　光夫

天候に恵まれた 8 月 11 日（金）、小学 5 年生 2 名を含む 8 名の参加者と 10 名のスタッフで尾瀬ガイドを行いました。

集合時間である 8 時には、参加予定者およびスタッフともども集合。磯部理事長の「賛助会員の日」挨拶の後に、各スタッフより入山時における注意事項やコース案内など行いました。

シャトルバスに乗車（8:30）とともに、理事長による尾瀬の添乗解説が始まりました。

沼山峠入口付近で身体をほぐし、元気よくいざ入山(8:55)となります。山道では同行の各スタッフが要所、要所で周辺に自生する高山植物や植生の遷移、また燧ケ岳の地形地質の案内をしながら大江湿原、尾瀬沼へと足を運びます。

三平下近く尾瀬沼畔展望デッキより、燧ケ岳を望む景観を味わいながら、尾瀬沼ヒュッテに到着。また昼食後ビジターセンターでの見学時間は、参加者とって、改めて尾瀬の知識を高める絶好の機会となったようです。

3 時半頃尾瀬御池にて解散。全員無事故の内にみんなで楽しんだ「賛助会員の日」事業は終了しました。ご参加いただいたみなさん、スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

＜賛助会員＞一木千恵さん、円谷沙織さんのご家族および友人の方々

＜指導員スタッフ 10 名＞

磯部、磯野、伊藤（佳）、伊藤（ア）、庄司、佐久間、高槻、刀、円谷、鍋山

不法投棄物の除去活動（沼尻）

～福島/群馬合同作業～

理事　大山昌克

日時/2023/1007（土）　気象/雨時々曇り

不法投棄物撤去作業は、所管部署すべての機関よりご配慮およびご承認のもとで、実施することができました。改めて感謝申し上げます。

【尾瀬を守る使命の行政機関】

尾瀬沼の保護	根拠法令	許認可窓口
保安林　（林野庁）	森林法	福島県南会津農林事務所
国立公園（環境省）	自然公園法	檜枝岐自然保護官事務所
鳥獣保護区（環境省）	鳥獣保護法	福島県南会津地方振興局
史跡名勝天然記念物（文科省）	文化財保護法	檜枝岐村教育委員会

また「入林届」の認可、発行には会津森林管理署南会津支署鈴木一成氏、檜枝岐森林事務所　首席森林官　奥田氏にも大変お世話になりました。

上記のように尾瀬沼畔の沼尻地区は、奥会津森林生態系保護地区の中核であるとともに、尾瀬は多くの保護法によって守られています。

【作業の留意点】

不法投棄の現場は、文化財保護法では特別天然記念物に指定された国宝級の箇所にあたります。そのため、いくつかの注意点をご教示いただきました。

・稚樹や植栽の伐採は一切行わない
・表土に残る投棄物に限定した除去を行う。
・地中にある投棄物の堀出しなど土壌形質の変更を伴う行為はしない。
・入林は最少の人数で行う。また作業終了後に「報告書」の提出などです。

【腑に落ちないこと】

10/7（土）10 時に群馬側、福島側からそれぞれ尾瀬沼畔沼尻休憩所に集合。除去作業地は地図上の記載はなく通称「旧ゴミ捨て場」と称される所です。ゴミ捨て場のみならず、沼尻の桟橋周辺にもガラス片や空き缶の散乱は確認されています。この周辺は廃棄物処理法違反の立件箇所ではないとは言え、国有林地の不適切な使用であり、原状回復措置はここにも必要と考えます。この状態で法的に一件落着とは腑に落ちません。

【除去地点】

2007～2009 年までに、沼尻で除去作業を行い延べ 19 トンの投棄物を除去したと聞きますが、驚くことは取り残したゴミの多さです。土に還らないビン類の破片や、缶ジュースのプルタブ、朽ちたビニールなど一つ一つは小さいものが多かったですが、しかしその量は無数でありこれらが地層化となっています。

過去に除去したと思われる一画は、稚樹はおろかササも下草も生えていません。たぶんこの地の表土はかなり薄く、たとえ種子が落ちても根を伸ばすことができず枯死したものと思います。最終除去より 10 年以上が経過し、その間に発生した豪雨や洪水で約 1m近くの表層土壌と投棄物が周辺に露呈され押し流されたものと思われます。

コメツガ、トウヒの稚樹も散見できないことを鑑みると、この地中には計り知れない量の投棄物が埋められているものと察します。持参したポリエチレン 100 袋（45ℓ、10ℓ）に分別回収。割れたビン類の破片はケガを伴う危険があるため、持参した土嚢袋を使用。＜搬出総量　約 40Kg＞

（手分けして 3 時間歩行、各自宅まで搬出）

除去作業お疲れ様。　次は 40kg ゴミ担ぎです。

＜参加者 11 名＞五十音順

磯部、伊藤（ア）、大山、小鮒、佐久間、須賀、佐々木、高槻、寺井、刀、松前

福島側（2023 年度）最終活動報告

大江湿原における防鹿柵の撤去活動

福島側担当　佐久間治光

活動日　2023 年 10 月 21 日（土）　雨のち雪

この日 4 年ぶりとなるボランティアによる防鹿柵の撤去活動が大江湿原で行われた。

主催南会津尾瀬二ホンジカ対策協議会により、日頃から尾瀬の自然保護に取り組んでいる各関係機関、団体、ボランティア総勢 64 名で作業支援が実施された。

天候悪化が懸念されていたが、作業中は安定した天候で、八班に分かれての作業は段取りも良く予定時間内に終了することができた。

平成 26 年度から林野庁による被害防止のための防鹿柵が設置されているが、その効果は大きくニッコウキスゲの開花状況も年々密度が濃くなってきたように思う。

何にもまして、悪天候の中、尾瀬沼ヒュッテの前に尾瀬を愛する大勢の仲間たちが一同に会したことに感動し唯々胸が熱くなりました。

皆さんお疲れ様でした！

また尾瀬でお会いしましょう！

本年度の最終活動報告をするにあたり、会員の皆様にお伝えしなければならないことがあります。

2023 年 9 月 3 日、誰よりも尾瀬を愛した円谷光行さんが天国へと旅立ちました。

長年にわたり事務局長として当会の運営を支え、活動には欠かさず参加し、楽しそうにバス添乗解説をしている姿、忘れません。

何事にも真剣に取り組み問題解決しようとする姿勢、忘れません。時には熱く議論する姿、子供のように満面の笑顔で酒を酌み交わす姿、忘れません・・・

尾瀬を愛したあなたは、千の風となって大空を吹きわたり見守っていることでしょう・・

＜参加者 4 名＞

磯部義孝、鍋山智之、庄司利則

佐久間治光

シカ柵の除去作業

ブナ平は秋本番

事務局だより

訃報

円谷光行氏（享年 76 歳）

永年にわたり当会運営にご尽力いただいておりましたが、病のため 2023（令和 5）年 9 月 3 日に永眠されました。前月 8 月 11 日の「賛助会員の日」まで活動に参加されており、まさに突然の訃報に驚くばかりです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2005 年　　入会/指導員
2008～2019 年　理事（事務局長）
2019～2023 年　監事

今後の予定

◎第 1 回理事会
　日程：2023 年 11 月 12 日（日）13:00～
　会場：郡山建設組合 2F　会議室
　議題：1.今年度の活動状況報告
　　2.次年度の活動計画（案）ほか

◎エコプロ 2023（SDGs Week EXPO）
　日程：2023 年 12 月 6（水）～8 日（金）
　　10:00～17:00
　会場：東京ビックサイト（東ホール）
　※当会はミニミニブースで出展します

◎特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」
　日程：2024 年 1 月 20（土）～2 月 11 日（日）
　会場：群馬県立自然史博物館/企画展示室
　※ポスター掲示を行います。

編集後記

2023 年の尾瀬は暑かったので、少し気温を調べてみました。当会の設立当時（1997 年）、尾瀬ヶ原は 11 日の夏日（真夏日はゼロ）、尾瀬沼の最高気温は 23℃でした。併せて 10 年および 20 年前もチェックしたところ、2017 年あたりから気温の急上昇が読みとれ、それ以降高温が常態化しています。氷河期からの生き残りや北方系の植物が多い尾瀬の植物相が、果たして生き残れるのか。ブナ帯の大幅減少も囁かれています。（大山）

年	夏日（真夏日）<尾瀬ヶ原>	最高気温（℃）
1997	11（0）	27.4
2003	17（0）	27.1
2013	18（0）	28.3
2017	38（4）	32.1
2023	68（14）	32.7

年	夏日（真夏日）<尾瀬沼>	最高気温（℃）
1997	0（0）	23
2003	0（0）	23
2013	1（0）	25
2017	3（0）	26.3
2023	54（0）	29.7

NPO 法人　尾瀬自然保護ネットワーク
Vol.26.　No.3　2023 年 11 月 20 日
発行人　：磯部　義孝
編集担当：大山　昌克
Web 担当：鈴木　誠一
■本部事務所（事務局）
〒969-0402 福島県須賀川市仁井田字大谷地 378-1　info@oze-net.com
電話/0248-76-1365　Fax/0248-72-5865
■群馬支部
〒371-0846 前橋市元総社町 2－21－12
小鮒方　電話/027-251-1089
http://www.oze-net.com/